

春日村について

春日市は、かつて那珂郡の一部であった旧5村が合併し、発足しました。

「春日(かすが)」という名は、藤原氏の祖神をまつた奈良春日大社が由来といわれています。春日村は旧5村で面積が最も広く、合併後も村・町・市の名前として引き継がれています。



▲春日市に属する旧村

春日市の歩み

明治22(1889)年
那珂郡5村→春日村

昭和28(1953)年
春日町(町制施行)

昭和47(1972)年
春日市(市制施行)

旧春日村に創建された春日神社

春日の集落は昔、原村(現在の春日高校付近)にありましたが、戦国時代に島津軍の兵火で焼け払われたため、現在地に集落を造りました。

慶長5(1600)年黒田長政の家老・黒田美作守一成が春日村知行領主に任ぜられた時、この一成公の先祖も藤原氏であることから、ナラ松山(元宮公園)にあった社殿の復興を命じ、現在の春日神社(本宮)を再建したと伝えられています。



▲春日神社には福岡藩主寄進の石燈籠などがある



地域の方々と一緒に 歩いて作ったマップです

地域に残る文化財の魅力を知り、実際に歩いて、伝えることを目的とし、令和6年5月11日(土)と18日(土)に「文化財マップ作りワークショップ 春日の歴史を知らう! 伝えよう!」を開催しました。

1回目は、若水会館(春日地区公民館)で講師の話聞き、地域の文化財を見て回るフィールドワークを行いました。2回目は参加者同士で、さまざまな懐かしい昔話をしながら、地図に気づいたことや感じたことを書き込み、熱心にマップ作りに取り組みました。

ぜひ皆さんもこのマップで、郷土の歴史を訪ね歩いてみてください。



▲フィールドワークの様子



▲マップ作りの様子

春日市文化財マップ

春日の歴史を 知ろう! 伝えよう!



歩いて訪ねよう！ 春日地区の文化財マップ

至 福岡 ↑



薬師堂

主尊は薬師如来。その右側には弘法大師の石製座像、左側には聖一國師(しょういちこくし)の木製立像がまつられている。かつては春日部落の三大名刹の一つ、良岳院(ごんがくいん)があったとされ、堂内には十三仏像がまつられている。



十三仏像



乃木大将遺品収蔵地石碑

日露戦争の軍人として名を残す乃木希典大将。かつてその副官を勤めた白水淡が、乃木夫妻殉死後に遺品を贈与され、自身の出身地春日村に収蔵したことを記した石碑。在郷軍人会でまつっていた遺品埋納地が、戦後米軍に接收されたため現在地に移設された。



春日神社 神社

768年頃に創建されたと伝えられる由緒ある神社。1710年建立の市内最大最古の鳥居が現存している。毎年1月には氏子夫婦を祝福する春日地区の行事「春日の婿押し(国指定無形民俗文化財)」が行われている。



若宮社には藤原鎌足がまつられている

スタート！
春日地区公民館(若水会館)

ゴール！

保存樹木 くす

長円寺

上居屋敷



旧河川の跡
やぶ神さまが今も静かに見守っている

上の地蔵
(船門地蔵)

昔はこの春日神社に向かう参道を境に、上居屋敷と下居屋敷にわかれていた

白水淡らが学んだ「浦田塾」があったのはこのあたり

三奈木黒田家の御屋敷があった

市内最古の鳥居

下居屋敷

保存樹木 くす

モヤイ風呂(共同風呂)があったところ。昔は糲すり石もここに置かれていた

御潮井橋

頓宮跡とも呼ばれる。1586年ごろまでは、ここに藤原氏の祖神・天児屋根命がまつられていた



三郎天神 神社

春日神社の末社。祭神埴安命は日本古来の農業神。地元では「お産の神さま」と呼ばれ、お産が始まる時に社の扉を開いて安産を祈願したという。社に向かって左手に石碑がある。



糲すり石
田んぼから持ってきた糲を石の穴に置いて小石でつき、子どもたちが糲殻を取っていた。



地祿天神 神社

春日神社の末社。田作りの神様、地祿田神とされる。以前は石塔の宝珠をまつっていたが、木造の小堂が移転し建て替わり、現在は菅原道真公の人形が据えてある。鳥居は平成14年1月建立。

九州大学筑紫キャンパス

元宮公園



九郎天神 神社

春日神社の末社。祭神は黒男大明神、供老大明神とも呼ばれ、田の神とされる。美幸祭の時に、お神輿を一時この石に休ませたと伝えられる注連縄が張られた石がある。

春日野小学校

御供田緑地

牛頸川

春日幼稚園

昔はカンゾーネバシと呼んだ

至 太宰府 ↓